

【2】

🔍 全訳

「クリスマスに何が欲しいの？」とデヴレル夫人は尋ねた。その日ほとんど口をきかなかったエンジェルは、そこに横たわり、プンプン怒り、母の邪魔に欲求不満を募らせていた。そのときばかりは、彼女は自分が何を欲しいのか分からなかった。すべて欲しいものを手に入れるのは時間の問題にすぎなかったからである。有名な小説家として、彼女は宝石や高価な服、毛皮のコート、自分の車を自分で買うことができた。そうした富と彼女を隔てていたのは、頭の中にあるものを書き物帳のページに移すのにかかる時間だけであり、その時間を母の予期せぬ訪問が奪っていたのだ。

🔍 第1文

“What would you like for Christmas?” Mrs. Deverell asked.

→ 「クリスマスに何が欲しいの？」とデヴレル夫人は尋ねた。

■ 解説ポイント:

- ✓ What would you like ...?:「～が欲しいですか？」丁寧な依頼・質問。
- ✓ for Christmas:「クリスマスに」。目的・時期を表す前置詞。

🔍 第2文

Angel had scarcely spoken a word all day, was lying there, fuming, frustrated by this intrusion.

→ その日ほとんど口をきかなかったエンジェルは、そこに横たわり、プンプン怒り、この邪魔に欲求不満を募らせていた。

■ 解説ポイント:

- ✓ scarcely:「ほとんど～ない」。
- ✓ fuming:「プンプン怒って」。fume [fju:m] の現在分詞。
 - ・語源:ラテン語 fumus(煙)。F は息が出る音で「発散」のイメージ。perfume(香りを発散させる)、fame(評判が広がる)、famine(飢えが広がる)など同系列。
- ✓ frustrated by this intrusion:「この邪魔に欲求不満を感じた」。
- ✓ intrusion [intrú:ʒən]:「侵入・邪魔」。
 - ・語源:in-(中へ)+ trudere(押す)。「押し入ること」。
 - ・類義語:extrusion(押し出す)、obtrusion(押し付ける)、protrusion(突き出る)。

🔍 第3文

For once, she did not know what she would like.

→ そのときばかりは、彼女は自分が何を欲しいのか分からなかった。

■ 解説ポイント:

- ✔ for once:「そのときばかりは／めずらしく」。
- ✔ what she would like:間接疑問文。「彼女が何を欲しいのか」。

🔍 第4文

It was only a matter of time before she would have everything she wanted.

→ すべて欲しいものを手に入れるのは時間の問題にすぎなかった。

■ 解説ポイント:

- ✔ It was only a matter of time before SV...:「SVするのは時間の問題にすぎない」。定型表現。
- ✔ everything she wanted:関係詞節。「彼女が望んだすべてのもの」。

🔍 第5文

As a famous novelist, she could buy herself jewellery, expensive clothes, a fur coat, her own car.

→ 有名な小説家として、彼女は宝石や高価な服、毛皮のコート、自分の車を自分で買うことができた。

■ 解説ポイント:

- ✔ as a famous novelist:「有名な小説家として」。as = 身分・資格。
- ✔ buy oneself A.:「Aを自分のために買い与える(買う)」。

🔍 第6文

All that separated her from such riches was the time it would take to transfer what was in her head to the pages of the exercise-book - time which her mother's unexpected visit was causing her to lose.

→ そうした富と彼女を隔てていたのは、頭の中にあるものを書き物帳のページに移すのにかかる時間だけであり、その時間を母の予期せぬ訪問が奪っていたのだ。

■ 解説ポイント:

- ✔ all that ...:all が先行詞。その後に関係詞節 that separated her ... が続いている。
- ✔ riches:「富」。rich は名詞でも使われ、「富裕な人々・富」を意味する。ここでは抽象名詞として「富」。
- ✔ was the time it would take to V:「～するのに必要な時間だった」。
- ・the time it would take to V の it は関係代名詞が省略された形(the time [that] it would take ...)
- ・It takes 時間 to V:「～するのに時間がかかる」構文の名詞化。
- ✔ transfer A to B:「AをBに移す」。

No28

・語源:trans-(越えて)+ ferre(運ぶ)。

・関連語:refer(参照する)、offer(差し出す)、confer(授与する)。

・trans- 接頭辞は「横切って・超えて」の意:transport, transform, transcend.

✔ was causing ... to lose:「～を失わせていた」。進行形で「現にそうしているところだった」＝「現実感の強調」。

✔ cause O to V:「Oに～させる」。使役構文の一種。ここでは「母の訪問が彼女に時間を失わせていた」。

[3]

🔍 全訳

20 世紀において時間のスケールは劇的に変化した。遠い過去の解釈における最大の変化は、過去 20 年の間に起こったものであり、新しい年代測定の体系、新しい遺物の発見、新しい証拠の評価があまりに急速に行われたため、従来の調査はすぐに時代遅れになってしまった。私たちが今や時間と空間を遡り、最も遠い祖先へと手を伸ばすのは、科学によって支配されるという点で過去の世紀とはまったく異なる、20 世紀後半の時間と空間に対する感覚を通じてである。だからといって、私たち自身が時間を通して旅をするとき、過去の歴史探検者の旅を無視してよいという意味ではない。社会史家は、時代遅れで捨て去られた説明からも社会史について多くを学ぶのである。

🔍 第 1 文

Time scales have changed dramatically in the twentieth century.

→ 20 世紀において時間のスケールは劇的に変化した。

■ 解説ポイント:

✔ time scales:「時間のスケール」＝時間のとらえ方。

✔ have changed:現在完了。過去から現在に至る変化。

🔍 第 2 文

The biggest changes in our interpretation of the distant past have taken place within the last twenty years as new schemes of dating, new discoveries of material remains and new evaluations of evidence have come so fast that earlier surveys have been rapidly outdated.

→ 遠い過去の解釈における最大の変化は、過去 20 年の間に起こったものであり、新しい年代測定の方法、新しい遺物の発見、新しい証拠の評価があまりに急速に行われたため、従来の調査はすぐに時代遅れになってしまった。

■ 解説ポイント:

✓ as = 理由。「～なので」。as new schemes ... have come so fast = 「新しい体系や発見があまりに急速に現れたので」。

✓ remains: 「遺物・遺骸」。ここでは名詞。※remain は動詞「残る」。

✓ survey: 「調査」。

・名詞は [sə:veɪ]、動詞は [sə'veɪ] と発音が異なる。

・語源: ラテン語 super-(上に) + videre(見る)。= 「上から見渡す」。

✓ outdated: 「時代遅れの」。

・out- + date。「時代から外へ押し出す」。

・out- 系の例: outnumber(数で上回る)、outgrow(成長して～を超える)、outshine(～より光る)、outlive(～より長生きする)、outwork(～より働く/外部の作業)。

🔍 第3文

It is through our late-twentieth-century sense of time and space, so different from that of previous centuries in that it is governed by science, that we now step backwards and reach out to our most remote ancestors.

→ 私たちが今や時間と空間を遡り、最も遠い祖先へと手を伸ばすのは、科学によって支配されるという点で過去の世紀とはまったく異なる、20 世紀後半の時間と空間に対する感覚を通じてである。

■ 解説ポイント:

✓ It is ... that ... : 強調構文。強調されているのは through our late-twentieth-century sense of time and space。「私たちが～するのは、まさにその感覚を通じてである」。that 以下と結びついている。

✓ so different ... : 挿入表現。「～とは非常に異なる」。

✓ that of previous centuries: 「以前の世紀の(感覚)」。that = sense of time and space を受ける代用表現。

✓ in that S V: 「～という点で」。理由を導く接続詞。

✓ step backwards: 「過去へさかのぼる」。

✓ reach out to ... : 「～へ手を伸ばす」。通常 reach は他動詞で「直接到達する」。ここでは自動詞的に out が加わり「間接的に接触しようとする」ニュアンスを表す。

✓ ancestor: 「祖先」。語源 ante-(前に) + cedere(行く) = 「前に行った人」。

🔍 第4文

This does not mean that we should ignore the journeys of past explorers of history when we make our own journey through time, for the social historian learns much about social history from out-of-date and discarded explanations.

No28

→ だからといって、私たち自身が時間を通して旅をするとき、過去の歴史探究者の旅を無視してよいという意味ではない。社会史家は、時代遅れで捨て去られた説明からも社会史について多くを学ぶのである。

■ 解説ポイント:

✓ This does not mean that ...:「だからといって～ではない」。

✓ when we make our own journey ...:「～するとき」。副詞節。

✓ for ...:「なぜなら」を表す接続詞。前文全体に理由を与える。

✓ discarded explanations:「捨て去られた説明」。

・discard:語源 dis-(離れて) + cardare(カードを投げる)。古フランス語のトランプ用語から「不要なカードを捨てる」。そこから「不要なものを捨てる」意に発展。

🔍 全訳

沈黙は、解釈の文化的規範に依存して多様な意味を伝達する、非言語的コミュニケーションの一形態である。私たちが沈黙を「発話の欠如」と説明しがちな傾向は、何か欠けていることを暗示する特定の文化的偏見を明らかにしている。しかし沈黙は、目的と意義を持つ「何か」なのである。沈黙の行動はすべての社会に見られるが、そのメッセージは社会ごと、さらには同じ社会内でも異なる。沈黙は、あらゆるコミュニケーションがそうであるように、その使用の状況的・相互作用的文脈から部分的に意味を伝える。沈黙の「使用」を強調することはまた、沈黙が単に存在するのではなく、参加者によって積極的に作り出されるという事実に関心を当てることでもある。

🔍 第1文

Silence is an act of nonverbal communication that transmits many kinds of meaning dependent on cultural norms of interpretation.

→ 沈黙は、解釈の文化的規範に依存して多様な意味を伝達する、非言語的コミュニケーションの一形態である。

■ 解説ポイント:

✓ act と action:

- *act* は「(個々の)行為・ふるまい」(一回の行為にフォーカス)。
- *action* は「行動一般・活動」(連続・集合的な動き)。ここは「沈黙という一つの行為」なので *act*。

✓ that transmits ...:関係代名詞 *that* が *act* を修飾。

✓ dependent on ...:形容詞が後置修飾して *meaning* を説明(= *meaning [that is] dependent on ...* の省略)。

✓ transmit の語源: *trans*-(越えて) + *mittere*(送る)→「向こう側へ送る」= 伝達する。

☑ interpretation / interpret の発音:

- *interpretation* /ɪnˌtɜːrprɪˈteɪʃən/ (インター「プレ」テイション)
- *interpret* /ɪnˈtɜːrprət/ (イン「ター」プリット)

🔍 第2文

Our tendency to describe silence as an absence of speech reveals a particular cultural bias, implying that something is missing, but silence is a “something” with purpose and significance.

→ 私たちが沈黙を「発話の欠如」と説明しがちな傾向は、何か欠けていることを暗示する特定の文化的偏見を明らかにしている。しかし沈黙は、目的と意義を持つ「何か」なのである。

■ 解説ポイント:

☑ 文の骨格: 主語 *Our tendency ...* + 動詞 *reveals* + 目的語 *a particular cultural bias*

☑ reveal の語源と核心: *re-*(逆・外へ) + *velum*(覆い・ベール) → 「覆いを外す」= 隠れていたものをあらわにする。

☑ describe A as B: 「A を B と説明する」。見認の *as*。

☑ implying ...: 直前の完全文に続く分詞構文(V-ing)。

- ① 継続・結果(その結果として~を含意している)
- ② 同時(明らかにしつつ、同時に~を示唆し)
- ④ 手段(~と示唆することで)

☑ missing: 形容詞「欠けている・見当たらない」。 *Something is missing.* = 「何か足りない」。

☑ significance: 「意義・重要性」。

🔍 第3文

Silent behavior occurs in all societies, although its message varies both between and within different groups.

→ 沈黙の行動はすべての社会に見られるが、そのメッセージは社会ごと、さらには同じ社会内でも異なる。

■ 解説ポイント:

☑ although / though の訳し方: 前から「もっとも~ではあるが」と入れると自然。

☑ occurs: 「見られる／起こる」。

☑ varies both between and within ...: 「集団間でもかつ集団内でも」変わる (*both A and B*)。

No28

🔍 第4文(★要点)

It conveys meaning, as does all communication, partly from the situational and interactional contexts of its use.

→ 沈黙は、その使用の状況的・相互作用的文脈から部分的に意味を伝える。これはすべてのコミュニケーションがそうであるのと同じである。

■ 解説ポイント:

- ✔ It の指示内容:直前の *Silence*(沈黙)を指す。
 - ✔ as does all communication の仕組み(最重要):
 - 元の平叙は as all communication conveys meaning(「ちょうどすべてのコミュニケーションが意味を伝えるように」)。
 - 反復回避:直前に *conveys meaning* を使っているため、同じ述語を代動詞 *do* に置き換える(*conveys meaning* → *does*)。
 - 倒置:*as* 節では「文末焦点の法則」(新情報を後ろに)と韻律のため as + do/does + 主語 の語順をとり、強調とリズムを付与(= *as does all communication*)。
 - 効果:反復を避けつつ、「沈黙=コミュニケーションの一形態」という類比を鮮やかに提示。
 - ✔ situational / interactional contexts:「状況的／相互行為的な文脈」。*partly from* で「部分的には～から」。
-

🔍 第5文

Emphasizing the “use” of silence also focuses on the fact that silence does not simply exist but is actively created by participants.

→ 沈黙の「使用」を強調することはまた、沈黙が単に存在するのではなく、参加者によって積極的に作り出されるという事実焦点を当てることでもある。

■ 解説ポイント:

- ✔ emphasizing ...:「～を強調すること」。動名詞で主語。Focuses が動詞 V-ing で始まる語形の判定:文頭 *Emphasizing* は①動名詞(主語) ②分詞構文 ③現在分詞(連体)の順に検討するのが実践的。
- ✔ the fact that SV ...:同格の *that*。中身は完全文。
- ✔ not simply A but B:「単に A ではなく B」。*simply* は「単に・ただの」=A を軽く否定し、B の積極性(*is actively created*)を立てる。